

## 「小学校 6 年 社会科歴史学習導入授業の取組」

### 1 学校名

知名町立下平川小学校

### 2 学年・人数

小学校 6 年生 17 名

### 3 日時・場所

#### (1) 学習会等の日時・場所

平成 30 年 4 月 学習会：社会科授業

平成 30 年 5 月 文化財ウォッチング

(中甫洞穴, アーニマガヤトゥール墓)

平成 30 年 6 月 文化財ウォッチング (住吉の暗川, 高倉)

平成 30 年 10 月 文化財ウォッチング (屋者マサバルの墓)

### 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

#### (1) 名称・時代

・中甫洞穴 (なかふどうけつ) 縄文時代

・アーニマガヤトゥール墓, 屋者 (やじゃ) マサバルの墓 中近世

#### (2) 特徴

中甫洞穴は、縄文時代に使用された洞穴遺跡で、南西諸島の土器編年及び当時の生活式が分かる遺跡である。アーニマガヤトゥール墓と屋者マサバルの墓は、中近世に造られ墓跡で、沖永良部島の墓制文化を検討する上で貴重な遺跡である。

### 5 保存会や地域との連携の具体

小学校の社会科の学習で児童は、自分達の住む地域から鹿児島県、日本とその範囲を広げながら、人の営みについて学習してきた。そして、6年生になり日本史について学習する中で、過去の人の営みについて考えるとき、どこか遠いところの話のようで、関心も低く、その時代のことを想像しがたい児童も少なくない。そこで、地域をよく知る方のお話を聞き、児童の郷土の歴史に対する興味・関心を十分に引き出すために、歴史学習の時間に、知名町の生涯学習課の学芸員に協力していただき、校区内の遺跡である中甫洞穴について学習した。

### 6 活用の取組の工夫した点

自分達の住んでいる地域にも、古から人の営みがあったことを実感できるように、学習会の中では、出土した土器に実際に触れたり、当時の人々の生活を想像できるように弓矢体験や火起こし体験を行ったりした。

また、学校での学習で関心を高めた上で、実際に中甫洞穴の見学に行った。その際、距離感や場の空気を直に感じ、自分達の地域にあることをより実感で

きるよう、自動車などを使わず徒歩で現地まで行くようにした。

## 7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



教室での中甫洞穴などの概要説明



実際に本物の土器に触れる活動



屋外での火起こし体験



中甫洞穴まで徒歩で移動



中甫洞穴見学の様子



アーニマガヤトゥール墓見学の様子

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 児童

- ・ 縄文時代とか昔のことで、遠い世界のことのよう思っていたが、校区内に昔の人が住んでいた遺跡があり、歴史がすごく身近に感じられた。

### 保護者

- ・ このような遺跡があることを知らなかった。郷土のことをもっと知る良いきっかけになった。

### 教職員

- ・ 教科書の資料では、児童にとって実感が湧かず、主体的に学習に取り組めないこともある。しかし、校区内にこのような遺跡があることを知り、児童が高い意欲をもって歴史学習に取り組めたので、大変良かったと思う。